



東京部会(第129回)

日時: 2022年7月22日(金) 19:00 - 21:00

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス東館オープンラボ+zoom

参加者: 31名(会場5名+zoom26名)

【内容要旨】

埴枝里子先生(都立農業高等学校)の司会で以下の報告と討論が進行した。

(1)～(5)の発表は8月に開催される夏休み経済教室をふまえてのプレゼンテーション、質疑応答、コメント等である。

(1) 「共通テストの趣旨を活かした「公共」経済の授業」について筑波大附属高等学校熊田亘先生より報告

- ① 教材は新しいものばかり選択し、その中から数点持参した。特に生徒の知的好奇心を刺激したい。
- ② 所属校について。教科書中心に教える必要がない。放っておくと内職する生徒が多い。
所属校のカリキュラムは新課程で、「公共」、「倫理・政治経済」、「政経」特講、「倫理」特講の構成である。
- ③ センター入試から共通テストに変わって、リード文に力点が置かれ、面倒な問題が増え、知識関連、各種資料の読解問題が増えた印象。

⇒ 以下のような授業があると良いかもしれないと考えている。

- A 設定(状況)の理解。
- B 論理的、実証的な思考・判断を鍛える。
- C 知識はとりあえず置いておいて。

そこで、

- ④「入門・ゲーム理論」の最初のゲーム
 - A ゼロサムゲーム
 - B 囚人のジレンマ
 - C チキンゲーム
 - D 価格を維持するか、値下げするか を持参した。
- ⑤ マッチング:バンドのパート決め、または大学生の就活を考える。
- ⑥ ビジネスゲーム:大学教員が作成した利益を競合させるゲーム。
→ 価格を決めると売り上げ、コストが決まり、さらなる段階として、価格に生産量のファクターを組み入れると、売れ残りが生じてより難解なゲームになり、生徒がじっくり考察するようになる。このゲームに関して生徒からは、どうすれば勝てるのかと質問が出た。
- ⑦ 勤務校の入試問題紹介:扱った経済概念は、情報の非対称性。この概念を知らなくても、受験生が論理的に考えれば正答にたどり着くと考えた。情報の非対称性を回避するための制度などを考えさせる問題である。
- ⑧ 補足 熊田先生から「夏の経済教室」に参加する先生方は、どんなことを意図して参加しているのかと質問があった。



(2) 「共通テストの趣旨を活かした「公共」経済の授業」について、金子幹夫先生より(神奈川県立三浦初声高等学校) 報告

- ① 今回の発表依頼について、勤務校の生徒はほとんど、大学入試に参加しない。ただし約100万人の高校生でも、半分50万人は大学入試に参加しない。社会で出現するさまざまな事象について、考えたり判断したりする際、問いが必要であると考えている。
このことをベースに共通テストが示すメッセージ(共通テストに示された問題)を受け止めたい。これをふまえ、進学校は共通テストに出題に対応する学習が必要。一方勤務校の生徒には、生活と経済とのつながりを理解させるような授業実践が必要。
- ② 共通テストに示された問題を改めて考え直してみた。勤務校の生徒にはどこか「遠い世界」の問題が多い。また知識の一問一答は必要ないとも考えている。私は身近で生活とのつながりを示す問題は以下の2点だと考えている。機会費用と校長先生の話に関する問題である。
- ③ 共通テストに出題された、大学入試に参加しない生徒向けに機会費用に関する教材を以下の内容で作成した。選択数は6択。この6択をベースに、1点を選択すると、他を諦め(捨て)なければならない状況の選択肢を作成した。
- ④ 金子先生は、最後に共通テストの問題に関する勤務校の生徒の正答状況と、作成した6択の機会費用の実践を、生徒の学習前後の変化を説明した。

(3) 熊田先生、金子先生の報告に関する質疑応答、コメント

- ① 新井明先生から熊田先生にコメント
実践は1本に絞ったほうが良いのでは。共通テストにつながるが良い。金子先生の発表を受けて、共通テストに出題されるだろうゲーム理論を紹介するのはいかがか。ゲーム理論は高卒認定試験にも出題されたので、参考になる。
- ② 杉田から熊田先生に質問
今回いくつか実践を紹介頂いたが、各教材の目標や生徒にここまで到達してほしい点などがあれば、教えて頂きたい。
→ 熊田先生より回答:教材のそれぞれがおもしろく、知的好奇心が高まるもの、モデルで考える経験をさせたい。
- ③ 小谷先生(春日部市立武里中学校)から金子先生に。中学公民の経済分野で、時給を用いた実践をおこないたい
- ④ 熊田先生から金子先生へ質疑:機会費用は分かって持続するか。
→ 金子先生より回答:機会費用の考え方は持続させたい。概念の定着とテストまでで良い知識があると考えている。経済単元の学習でつながる手立てとして、機会費用は定着させたい。

(4) 河原和之先生による(立命館大非常勤講師)「地理で経済を教える」の報告

- ① 地理学の5大テーマと経済概念を結びつける提案を構想している。特に空間的相互関係を中心に提案する。
- ② コメ(新潟)、茶、川上村のレタス、沖縄(鉄道)、バラの盛んな地域をネタに当日提案する予定。
- ③ 小谷先生よりコメント:一つひとつのネタがアトラクションのようで、あっという間に聞き終えたので、ぜひこの提案をベースに授業づくりしたい。



④ 当日河原先生とコラボする加藤先生より、プレゼン内容が多いのでまとめる提案とコメントの例(新潟のコメント)が紹介された。

(5)「情報で金融を教える」について、新井明先生より(目白大学社会学部非常勤講師)の報告

① 当日のプレゼンの最初は新井先生がご担当し10分程度、その後40分をコラボする塩田真吾先生(静岡大学教育学部)が提案、これをうけて新井先生の授業実践と生徒の評価の紹介を10分、最後にフロアーから質疑を10分程度受ける予定にしている。

② 当日のプレゼン内容:LINEと教材を共同開発した金融情報リテラシーに関する内容である。

③ 浦安市立見明川中学校での実践(一部はコロナで中止)した内容は以下の通り。

基礎編 信用って？

応用編① 見えないお金とのつきあい方

応用編② 複利的思考を身に付けよう

④ 質疑応答は時間の関係で割愛された。

(6) 夏の経済教室申し込み状況について、鈴木深氏(東京証券取引所金融リテラシーサポート部)より報告

① 2022.7.22現在、申し込み状況は420名である。但し、現在の急激な感染拡大状況を鑑みて、今後企画、運営の変更がありうるということが説明された。

② 判断の期限は7月末。変更の際の手順などが確認された。なお、原稿締め切りは8月3日である。

(7) 杉田孝之(千葉県立津田沼高等学校)より、「参院選で聞いてみた…高校生がずばり実現したい社会保障は？」(6/20(月)読売新聞朝刊に紹介の実践)について報告

① 新聞に掲載された記事と配付資料を確認し、次回以降の東京部会で本実践をブラッシュアップする時間をとることを確認した。

以上記録と文責 杉田 孝之(千葉県立津田沼高等学校)

<input checked="" type="checkbox"/> テスト問題 (新テストなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	<input type="checkbox"/> 新聞教材(NIE)
---	--	--	---	------------------------------------

次回開催予定: 2022年9月10日(土)19時00分~21時00分 慶應義塾大学+zoom

議題 夏休み経済教室の総括、実践案の検討など